

## 漁家民宿のおかみさんが担う漁村地域の活性化

— 自然体験学習のサポートを通じて —

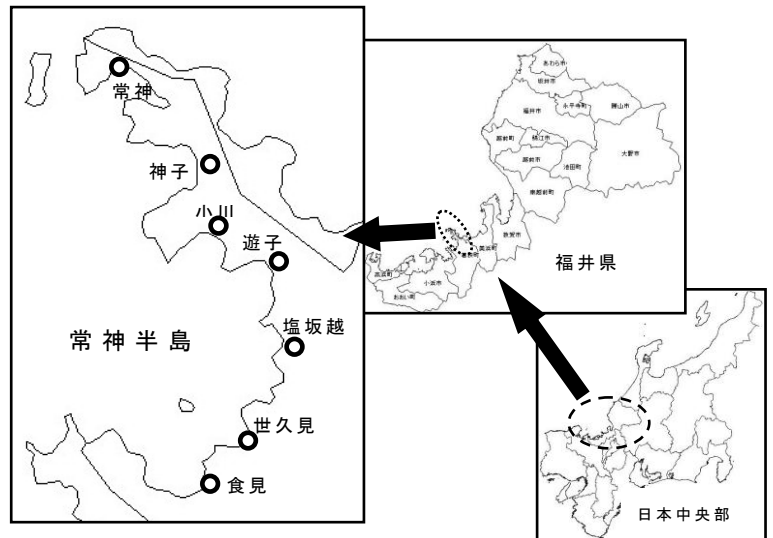
若狭三方漁業協同組合女性部

浜川 晴美

### 1. 地域の概要

私たちの住む三方上中郡若狭町は、福井県西部の若狭湾に突き出た常神(つねかみ)半島を抱く、周囲を海・湖・山に囲まれた自然豊かな地域である。

若狭三方漁協は、この常神半島に点在する北から常神・神子(みこ)・小川・遊子(ゆうし)・塩坂越(しゃくし)・世久見(せくみ)・食見(しきみ)の各漁業集落で構成されている。



地域の概要

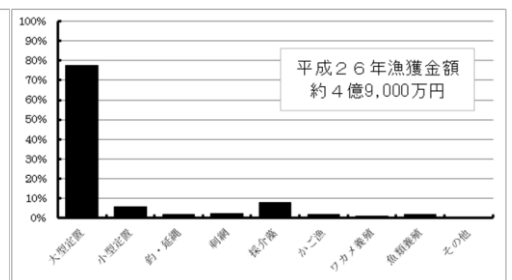
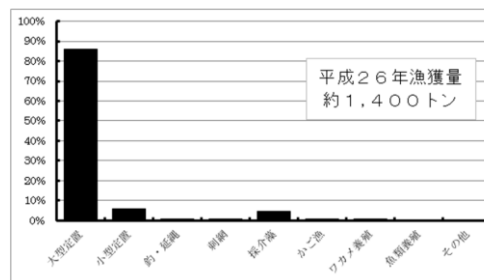
### 2. 漁業の概要

主要漁業は、大型定置網漁業で、須崎(すさき)定置・神子定置・小川定置と世久見定置の4ヶ統があり、それに従事する組合員が多

く、平成27年の組合員数は205人となっている。また、個人的に営む小型定置網や刺網・延縄・一本釣および採介藻漁業など、多種多様な漁業が営まれている。

平成26年度の漁獲量は、約1,400トンで、漁獲金額としては、約4億9,000万円となっており、全漁獲の約70~80%が定置網の漁獲となっている。

また、私たちの地域は、県内有数の漁家民宿数を誇っており、福井県全体で394軒の内約24%を占める93軒の漁家民宿が営まれている(平成27年9月現在)。



漁業種類別漁獲量・漁獲金額

### 福井県内漁家民宿数

(H27年9月現)

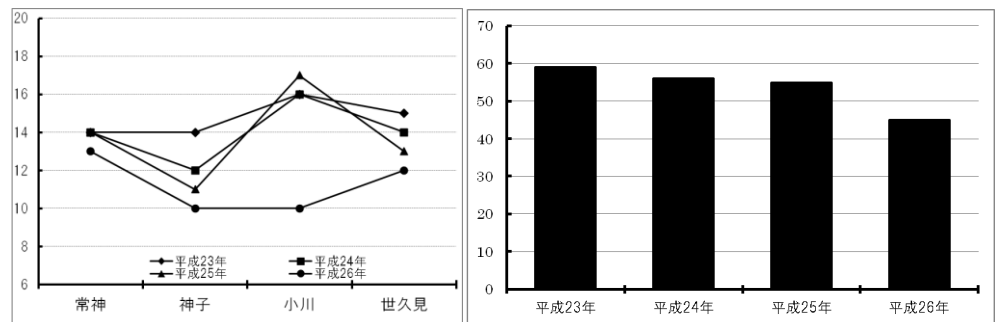
市町別	軒数	割合(%)
坂井市	7	1.8
福井市	14	3.6
越前町	36	9.1
南越前町	19	4.8
敦賀市	42	10.7
美浜町	45	11.4
若狭町	93	23.6
小浜市	74	18.8
おおい町	48	12.2
高浜町	16	4.1
合計	394	100.0

漁家民宿では、新鮮な魚介類を豊富に使った漁師料理を提供するため、養殖・畜養イカダが多く点在していることもこの地域の特徴で、アオリイカを“地域ブランド”とし、PRに努めている。しかし、地域によっては年々高齢化も進み、漁業後継者不足が懸念されている。

### 3. 女性グループの組織について

漁協女性部は、昭和32年に結成され、現在部員は44人(常神14人・神子10人・小川9人・世久見11人)となっている。

私たち女性部は、各種イベント(地区の祭り・運動会・敬老会等)への参画、環境美化(海浜や共同利用施設の定期的清掃)、海の環境



年別グループ員の推移

保全に向けた活動など、地域に根差した活動をしている。また、他の漁協女性部との違いとしては、女性部の定年制を設けており、年齢構成は比較的若くなっている。そして、漁業以外の仕事を持っている人や、県外出身者で嫁ぎ先の民宿を手伝っている人も多く、「女性部だから浜をよく知っている」というわけではない。むしろ、「同じ浜で暮らす“お母さん”として、家族のために何ができるか」を意識した活動を心がけている。

### 4. 活動の取り組み課題の選定と動機

漁協女性部というものの、漁業以外の仕事を持っており、各地域のイベント活動もあわせて行っていることから、時間的制約がある中での活動ではあるが、4地区共通で取り組んでいることとして、小・中学生を対象にした自然体験学習の受け入れがある。

この自然体験学習が始まった背景としては、“海・湖・山・里”の豊かな自然に恵まれたこの環境を生かして、田舎だから学べることを、子供たちに体験させたいと一般社団法人：若狭三方五湖観光協会が「若狭三方五湖わんぱく隊」を発案したものである。

その中で私たちは、漁家民宿を活用した体験メニューの実施や、宿泊の受け入れ体制を整え、地区ごとに協力することとなっ



一社：若狭三方五湖観光協会  
パンフレット



体験メニュー(磯遊び)

た。また従来は民宿の閑散期だった春期に生徒を受け入れることで、地域の活性化と漁家民宿の収入増を目指した。

## 5. 実践活動状況の成果

自然体験学習の受け入れについては、“わんぱく隊”が発足（平成2年）した当初から現在まで続いており、体験メニューについては、“磯遊び（砂浜での体験）”、“養殖の餌やり（沖合いけすまで船で移動しての餌やり）”、“大型定置網見学（金庫網からの漁獲）”、“釣り体験（釣り堀でマダイやアジの竿釣り体験）”、“ロープワーク（簡単なロープの結び方）”、“アジなどの干物作り”等がある。

私たちは、漁業体験に来た生徒たちの宿泊先となる漁家民宿で、若狭湾の“海の幸”を生かした料理を提供したり、漁師さんたちとの意見交換会や漁業教室（定置網の仕組みや設置の仕方等）の補助など、ときには一緒に浜辺でバーベキューをしたりと、滞在中の“若狭のおかあちゃん”として、この自然体験学習が生徒たちの“一生の思い出”になるよう裏方としてのサポートに従事している。

地区全体で毎年約40校近くを受け入れ、生徒数にすると約4,000人になり、閑散期に誘客が見込めることで、安定した収入につながっている。また、訪れる子供たちの顔を見ると“また、頑張ろう！”という気持ちが湧いてくる。そして、「いろいろな体験が楽しかった！」「ごはん美味しかった。ありがとう！」など、目を輝かせて喜んでくれ、素直な子供たちと色々な話をしていると疲れも吹き飛び、改めて“若狭三方が自然あふれる素晴らしい地域”なんだと再認識させてくれる。

一方、受け入れる側としての苦勞も多い。他人の子供を預かっている以上、食中毒やけがの無いよう安全面に気を配り、



体験メニュー（養殖餌やり）



体験メニュー（釣り体験）



体験メニュー（ロープワーク）

年別	国内(中京圏)		海外(台湾)	
	学校数	生徒数	学校数	生徒数
平成23年	48	4,487	1	39
平成24年	45	4,485	1	17
平成25年	44	4,003	5	213
平成26年	37	3,517	1	60
平成27年	35	3,414	1	25
合計	209	19,906	9	354

昔に比べ現在では、“食物アレルギー”の問

題があり、ソバやエビ・カニなどの甲殻類アレルギーなどの生徒が多くなったことで、食事の料理メニューに苦心することも多々ある。

## 6. 波及効果

県外の生徒が訪れ浜に子供たちの笑い声があふれることで、周りの大人たちも元気をもらっている。また、自然体験学習から帰校後に、生徒たちから色紙や手紙・年賀状などが届き「ありがとうございました。楽しかったです。また行きたいです」などうれしい言葉が書いてあり、実際に成人した子供たちが訪れてくれたこともある。

生徒のみならず、受け入れ学校の担任の先生が異動先で「若狭三方でこんな自然体験ができるよ！」と紹介してもらうことで、新たな学校が訪れるなどの波及効果もあった。

この自然体験学習を通して、多くの生徒や先生たちが“若狭三方”を訪れてくれることで、学校教育の一環であるものの漁村との交流に結び付き、地域の活性化に貢献できていると自負している。

近年は台湾からの自然体験学習の受け入れもあり、今後増加していく可能性もあることから漁家民宿の主人自ら語学の修得・研修等も含め、インバウンド対応についても、若狭三方五湖観光協会と連携して、外国人の受け入れ体制の強化も図っていききたい。

## 7. 今後の課題

現在では、他府県でも漁業体験を実施する地域が増加しており、学校側の選択の幅も広がったことに加えて、少子化による生徒数の減少もあることから、受け入れ人数については減少傾向にある。

他の地域と差別化するうえで、“シーカヤック体験”など体験メニューの拡大や、インバウンド対応などを今後視野に入れた活動も考えていかなければならないと思っている。

学校側の都合かもしれないが、移動時間を確保するため滞在時間が短くなり“時間に追われた”中での活動になる場合があり、校外活動の一環としても、風光明媚な“海辺”の自然を満喫するために来ているのだから、もう少し“ゆとり”のあるスケジュールを組んでいただけたらと思っている。さらに学校によっては、人手が不足し写真撮影などを十分に行うことができない場合もあるようで、生徒たちの思い出が“カタチ”となって残るように、漁家民宿側が撮影を手伝ってあげるような事ができないかと考えている。

うれしいことに、北陸新幹線や舞鶴若狭自動車道などの交通インフラの整備に加え、昨年(H26)は「神子トンネル」が完成した。今後、常神地区までのトンネルが開通し道路事情がさらに良くなれば、もっとアクセスが良くなり、移動時間の短縮も期待できる。その結果、“ゆとり”のあるスケジュールの組み立てや、もう少し広範囲な集客（誘客）も見込めるのではないかとと思っている。

そのためにも、「若狭三方の自然体験学習」という取り組みが継続していけるよう、“若狭のおかあちゃん”として精いっぱい協力していきたい。